

鹿児島県考古学文献目録 II

池畑 耕一

1974(昭和49)年～1981(昭和56)年

および前回の訂正・補遺

例 言

1. 本編は鹿児島県に関する考古学関係文献を集録したものである。
2. 今回は、前回(鹿児島考古第9号)の訂正・追加を含め、1981年までを対象とした。
3. 記載順・略記等は前回と同様である。

◎ 次の文献は重複あるいは未発行のため消去する。前回の資料番号で記す。

16・23・32・45・100・156・184・221・267・298・299・346・347・348・362～370・635・653
763・780

◎ 次の文献は発行年を訂正する。

1. 1891年→1892年
4. 1895年→1896年
14. 1909年→1901年
59. 1931年→1941年
162. 1951年→1921年
169. 1953年→1952年

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
1	1904(M37)	薩南考古雑談	藤 田 浮 鷗	考古界 3-10	
2	1914(T3)	薩摩と琉球	横 山 健 堂	中央書院	
3	1916(T5)	隼人考	喜 田 貞 吉	歴史地理28-5～29-1	1917年まで
4	1918(T7)	九州旅行談	〃	考雑 8-7	
5	1935(S10)	南島の旅(一)(七)	三 宅 宗 悦	ドルメン 3-5・6・8・9 10・12, 4-3	
6	1938(S13)	多岐島国分寺	角 田 文 衛	国分寺の研究(下)	
7	〃	大隅国分寺	寺師見国・木村幹夫	〃	
8	〃	加治木町発見の石器	樋口清之・乙益重隆	史雑 10-2	
9	1941(S16)	九州南端の石包丁	藤 森 栄 一	古代文化 12-8	
10	〃	東亜農具雑記 —日本古墳発見の鋤と鍬—	橋 場 信 夫	〃	
11	1953(S28)	鹿児島県立図書館博物室 考古資料目録	鹿児島県立図書館博物室		
12	1954(S29)	鹿児島県鹿児島市一の宮遺跡	河 口 貞 徳	年報 2	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
13	1955(S30)	出水貝塚の馬について	林田重幸・山内忠平	鹿大農学部学術報告 4	
14	〃	我が国古代稲作の系統	国 分 直 一	水産講習所研究報告 1	
15	1956(S31)	古式古墳の多葬	石 部 正 志	貝塚 57	唐仁原大塚
16	〃	縄文文化の起源の研究	江 坂 輝 彌	史学第29巻第2号	
17	1958(S33)	1957年度の日本考古学界(2) 弥生文化(九州)	小 田 富士雄	貝塚 74	
18	〃	山川町成川遺跡	河 口 貞 徳	郷土史研究会誌第2号	隼人町郷土史研究会
19	〃	成川談義	〃	三州談義 7	三州談義社
20	〃	成川遺跡	〃	さんぎし	さんぎし発刊所
21	〃	先史時代の南日本	〃	警友さつま	
22	〃	鹿児島県種子島広田遺跡発掘の 弥生時代人頭骨に就いて	永 井 昌 文	解剖学雑誌 33	
23	1960(S35)	種子島南種子町の埋葬遺跡 の発掘調査	国 分 直 一	昭和34年度文部省研究費による 研究報告集録・人文篇	
24	1960(S35)	面縄第二貝塚の調査	国 分 直 一	水産講習所研究報告 5	
25	〃	薩摩大口市伊佐郡における 威骨器	寺師見国・三島格	九州考古学 9 号	
26	〃	1959年度の日本考古学界(1) 縄文文化(西日本)	間 壁 忠 彦	貝塚 97	
27	〃	弥生文化 (2)	磯 崎 正 彦	〃 98	
28	1961(S36)	奄美群島沖永良部島西海岸 発見の抜歯頭蓋	金関・永井・牛島	年報 9	
29	〃	奄美大島の先史時代	国分・曾野・河口	〃	
30	〃	古代九州人の風習の抜歯	永 井 昌 文	福岡医学雑誌52-8	
31	〃	種子島中種子町に発見された 覆石墓について	盛 園 尚 孝	種子島民俗 13	
32	〃	縄文と弥生	河 口 貞 徳	三州談義 40・41	三州談義社
33	1962(S37)	九州における貝殻文土器に ついて	大 脇 直 泰	考古学研究第8巻第3号	
34	1963(S38)	貝塚出土品の一例	山 口 睦 男	もぐら 2 号	
35	〃	日本及びわが南島における 葬儀上の諸問題	国 分 直 一	民族学研究 2 月号	『現代のエスプリ』 111号(1976年)
36	〃	鹿児島県種子島広田遺跡出 土の弥生時代人骨に就いて	永 井 昌 文	解剖学雑誌 38	
37	1964(S39)	離島の人文地理―鹿児島県 飫島学術調査報告―	藤 岡 謙二郎 編	大明堂	
38	〃	黒川洞穴発掘報告	河 口 貞 徳	洞穴遺跡調査会報 12	
39	〃	日本馬の源流	林 田 重 幸	自然 Vol.19 No.2	
40	1966(S41)	鹿児島県宝島浜坂貝塚	三 友 国五郎	年報 14	
41	1968(S43)	層序と編年	芹 沢 長 介	新版考古学講座第1巻	
42	〃	南島の複葬について	国 分 直 一	南島研究第8号	
43	〃	先史時代の屋久島	河 口 貞 徳	屋久島《美しい豊かな 自然》	名溪堂
44	1969(S44)	新版考古学講座 第2巻～第10巻		1971年まで	
45	〃	鹿児島県曾於郡田野洞穴	河 口 貞 徳	年報 17	
46	〃	鹿児島県吹上町黒川洞穴	〃	〃	

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
47	1969(S44)	日本文化の歴史—大地と呪文	国分直一		単行文
48	1970(S45)	九州考古学散歩	柴田勝彦	学生社	
49	〃	古代における大隅・薩摩両 国の差異について	中村明蔵	鹿児島史学19号	
50	〃	弥生時代の貝輪	永井昌文	日本人類学会・日本民 族学協会連合大会記事	
51	〃	南島の須恵器	佐藤伸二	東洋文化48・49	
52	1971(S46)	始良郡溝辺町大型の溝建設地内にお ける埋蔵文化財発掘調査報告書	林敬二郎	鹿児島史跡調査会	
53	〃	鹿児島県清生町の埋蔵文化財発掘調査 報告書	黒田清光		単行文
54	〃	大島郡笠利町の先史学的所見	白木原和美	南日本文化第4号	
55	〃	鹿児島県溝辺町石峯遺跡	河口貞徳	年報19	
56	〃	川内市鶴峯窯址	〃	〃	
57	〃	鹿児島県出水市上場遺跡	池水寛治	〃	
58	〃	〃 吹上町今田遺跡	上村俊雄	〃	
59	〃	〃 熊毛郡増田島ノ峯遺跡	盛園尚孝	〃	
60	〃	〃 西之表市田之脇遺跡	〃	〃	
61	〃	〃 出水郡長島町温之浦古墳群	池水寛治	〃	
62	〃	出水の旧石器と古墳	〃	出水文化20	
63	〃	芹沢長介・池水寛治両氏に 関く	宮路道雄	〃 22	
64	〃	南島史研究の問題点	国分直一	地方史研究21巻4号	
65	1972(S47)	九州	小田富士雄	神道考古学講座第二巻	
66	〃	南島考古学の諸問題	国分直一	史学研究86	
67	〃	鹿児島県出水地下式板石積 石室墓出土の土器	河口貞徳	土師式土器集成2	
68	〃	大隅の埋蔵文化財	〃	みなみの手帖第3号	みなみの手帖社
69	1973(S48)	縄文晩期頃の鉄片の発見	河野本道	考古学ジャーナル77	
70	〃	全国考古学関係学会・研究 会、文化財保護団体一覧(3)		〃 80	
71	〃	1972年の考古学界的動向 —縄文時代	江坂輝彌	〃 81	
72	〃	地下式古墳の研究	石川恒太郎	帝国地方行政学会	単行本
73	〃	わたしたちの文化財を守り ましょう	県教委文化課	文化課だより第1号	
74	〃	特集・現代都市と都市遺跡 —鹿児島	上村俊雄	古代学研究69	
75	〃	九州における細石器文化	橘昌信	考古学論叢第1号	
76	〃	考古学この一年の成果	江坂輝彌	歴史読本第18巻第13号	
77	〃	鹿児島県堂前遺跡の調査概要	池水寛治	高尾野町教育委員会	単行本
78	〃	先史時代の九州と大陸・南 方文化	国分直一	九州文化論集1	
79	〃	鹿児島県の文化財	鹿児島教育委員会		単行本
80	〃	鹿児島県市町村別遺跡地名表	〃		〃

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
81	1978(S48)	類須器集成(奄美大島・徳之島・喜界島)	白木原 和 美	南日本文化第6号	
82	"	祭祀遺跡地名表(5) 中国・四国・九州編	梶 山 林 継	神道考古学講座第6巻	
83	"	弥生土器—九州〔2〕〔3〕〔5〕	小 田 富士雄	考古学ジャーナル77・79・83	
84	"	本城・田之脇遺跡調査概報	盛 園 尚 孝	西之表市教育委員会	単行本
85	"	隼人の七ツの城	乙 益 重 隆	古代史講座月報9	学生社
86	1974(S49)	九州の古瓦と寺院	九州歴史資料館		単行本
87	"	成川遺跡	田 村 晃 一 編	埋蔵文化財発掘調査報告七	"
88	"	大原・宮蘭遺跡	下 飯 村 教 委		"
89	"	鹿児島県上場遺跡発見の住居址	池 水 寛 治	鹿児島考古第9号	
90	"	奄美における土器文化の編年について	河 口 貞 徳	"	琉大史学第6号にも
91	"	西ノ表市納曾遺跡概報	上村・本田・旭 平島・多々良	"	
92	"	志布志の縄文遺跡の分布・立地・標高・その他について	瀬戸口 望	"	
93	"	内之浦町榎木遺跡	池水寛治・戸崎勝洋	"	
94	"	吉野町七社遺跡(2)	上村俊雄・出口浩	"	
95	"	古墳の計測(そのⅡ)	平 田 信 芳	"	
96	"	枚聞神社所蔵の松梅蒔絵手箱について	重 永 卓 也	"	
97	"	工事現場における遺跡の紹介	有 元 彰 順	"	
98	"	鹿児島県考古学関係文献目録	池畑耕一・瀬戸久夫	"	
99	"	嘉徳遺跡	河 口 貞 徳 平島・脇岡	鹿児島考古第10号	
100	"	倉園遺跡採集の指宿式土器とその他について	瀬戸口 望	"	
101	"	末吉町柳井谷遺跡の席目瓦痕土器について	松 下 文 春	"	
102	"	与論島城遺跡について	有 元 彰 順	"	
103	"	堀川貝塚について	"	"	
104	"	南島文化はどのように研究されているか	国 分 直 一	日本考古学の視点下	日本書籍
105	"	日本在来馬の源流	林 田 重 幸	日本古代文化の探究一馬	社会思想社
106	"	鹿児島県沖永良部島の先史時代(上)	上 村 俊 雄	古文化談叢第2集	
107	"	鹿児島与論島での見聞	菅 谷 文 則	青陵No.26	
108	"	奄美先史学の当面する諸問題	白木原 和 美	琉大史学第6号	
109	"	奄美最古の土器	河 口 貞 徳	"	
110	"	南島古代文化の系譜	国 分 直 一	東アジアの古代文化 創刊号	「南島の古代文化」(毎日新聞社)にも所収
111	"	九州島南部の朝鮮系文化	中 村 明 蔵	" 2号	
112	"	1973年の動向—縄文時代(西日本)	賀 川 光 夫	考古学ジャーナル94	
113	"	" 弥生時代(西日本)	乗 安 和二三	"	
114	"	" 古墳時代	堀 田 啓 一	"	

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
115	1974(S49)	1973年の動向—南西諸島	嵩 元 政 秀	考古学ジャーナル 94	
116	〃	層位的出土例と相対的編年	芹 沢 長 介	古代史発掘 1	
117	〃	岩偶と岩板	江 坂 輝 弥	〃 3	
118	〃	九州地方の造形文化	賀 川 光 夫	〃 〃	
119	〃	シナ海諸地域の複葬 ⁽¹⁾ —西南日本の複葬	国 分 直 一	どるめん第3号	
120	〃	与論島における先史学的所見	白木原 和 美	南日本文化第7号	
121	〃	史前時代	〃	奄美文化誌	
122	〃	外耳をもつ石臼	三 島 格	〃	
123	1975(S50)	薩摩国府跡・国分寺跡	河 口・小田 他	鹿児島県教委	
124	〃	指宿市礼川遺物包含地の現状変更許可申請に伴う発掘調査事業報告(第二年度)		指宿市教委	
125	〃	1974年の考古学界的動向 —縄文時代(西日本)	橋 昌 信	考古学ジャーナル 108号	
126	〃	〃 —弥生時代(西日本)	関俊彦・中山清隆	〃 〃	
127	〃	〃 —南西諸島	安 里 嗣 淳	〃 〃	
128	〃	新刊書評『隼人』	坂 詰 秀 一	〃 109号	
129	〃	八重山先史系土器とその北 上の形跡	国 分 直 一	〃 113号	
130	〃	国分寺・国分尼寺の伽藍配 置について(H)	白 木 康 夫	〃 115号	
131	〃	〃 (T)	〃	〃 116号	
132	〃	新刊書評『薩摩国府跡・国 分寺跡』	坂 詰 秀 一	〃 〃	
133	〃	海上の道—海流・季節風・ 動物をめぐる	国 分 直 一	えとのす第2号	
134	〃	トカラ海峡	白木原 和 美	〃 〃	
135	〃	異考「南島の道」	柴 田 勝 彦	〃 〃	
136	〃	双性の巫人—特に南西諸島 の事例について	国 分 直 一	〃 第3号	
137	〃	シナ海と九州	〃	アジア文化第11巻第3号	
138	〃	南島先史時代の文化交流	河 口 貞 徳	〃	
139	〃	邪馬台国時代の人びと	〃	日本古代史の旅3	小学館
140	〃	宮ノ前遺跡	酒 匂 義 明	志布志町教委	
141	〃	宝島大地遺跡の調査	国分・白木原・小谷 佐藤	協会総会研究発表要旨 第34号	
142	〃	類須恵器の出自について	白木原 和 美	法文論叢第36号	
143	〃	先史時代の奄美	内 田 裕 雄		南海日々新聞社
144	〃	乱脈な文化財行政	河 口 貞 徳	九州文化財白書	
145	〃	海上の道	三 島 格	野性時代 10月号	
146	〃	日本各地の寺院跡—九州	小 田 富士雄	新版仏教考古学講座 第2巻	
147	〃	日本各地の仏塔—九州	多田隈 豊 秋	〃 第3巻	
148	〃	日本各地の墳墓—九州	渋谷忠章・上野精志	〃 第7巻	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所収文献名	備 考
149	1975(S50)	隼人の呪力とその系譜	中村明蔵	隼人文化創刊号	
150	〃	隼人豆手帖(其一隼人の楯)	藤井重寿	〃	
151	〃	隼人の盾の幾何学文様の解釈について—考古学的資料の検討	新東晃一	〃	
152	〃	種子島の製鉄遺跡から—南九州の鉄の文化の可能性	田村克己	〃	
153	〃	隼人学への招待	向山勝貞	〃	
154	〃	書評『薩摩国府跡・国分寺跡』	中村明蔵	〃	
155	〃	民族学から見た隼人	大林太良	日本古代文化の探究—隼人	社会思想社
156	〃	考古学上より見たる熊襲と隼人	上村俊雄	〃	〃
157	〃	隼人源流考—島嶼世界との関連をめぐって	国分直一	〃	〃
158	〃	近畿地方の隼人—とくに考古学の視点から	森浩一	〃	〃
159	〃	隼人支配	井上辰雄	〃	〃
160	〃	隼人とその文化	金関丈夫・大林太良	〃	〃
161	〃	発掘から推理する	金関丈夫	朝日選書40	
162	〃	右手の不使用—南海産巻貝製腕輪着装の意義	高倉洋彰	九州歴史資料館研究論集1	
163	〃	日本出土の越州窯陶磁器の諸問題	亀井明德	〃	
164	〃	種子島における弥生式土器	旭慶男	鹿児島大学考古学研究会紀要第1号	
165	〃	橋牟礼川遺跡	佐土原祐昌	指宿史談第五号	
166	〃	南北九州の古墳時代墓制の対比	岩崎光	〃	
167	〃	上場遺跡の住居址から	池水寛治	もぐら第10号	
168	〃	上場遺跡の第5次調査の概要	大久保・富田	〃	
169	〃	大口市日東遺跡の調査(昭和47, 48年度)	堀切他	〃	
170	〃	出水地方における遺跡の破壊	野村他	〃	
171	〃	弥生時代の南西諸島	国分直一	古代史発掘4	
172	〃	縄文時代の植物食	渡辺誠	考古学選書13	
173	〃	七社遺跡	出口浩	年報26	
174	〃	風口遺跡	河野治雄	〃	
175	〃	橋牟礼川遺跡	〃	〃	
176	〃	沖田岩戸遺跡	池水寛治	〃	
177	〃	荘遺跡	〃	〃	
178	〃	日東遺跡	〃	〃	
179	〃	大原・宮蘭遺跡	本蔵久三	〃	
180	〃	三諦寺遺跡	〃	〃	
181	〃	隼人塚団地遺跡	〃	〃	
182	〃	永山古墳	河口貞徳	〃	

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所収文献名	備 考
183	1976(S51)	花の木遺跡	諏訪・青崎	鹿児島埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	鹿児島教委
184	〃	放光寺遺跡	平田・田口・戸崎・長野他	〃 (2)	〃
185	〃	牟田尻・カラン迫遺跡	池畑・牛の浜	〃 (3)	〃
186	〃	入来遺跡	河口貞徳	鹿児島考古第11号	
187	〃	入来遺跡調査概要―支石墓研究の一環として	河口貞徳編	〃	
188	〃	下小路遺跡	河口・旭・最所	〃	
189	〃	器台付皿形土器	河口貞徳	〃	
190	〃	隼人における共同体社会の崩壊期について―大口盆地の仏教文化とその意義	新東晃一	隼人文化第2号	
191	〃	隼人塚石造物の成立時期について	上村俊雄	〃	
192	〃	隼人と馬―隼人と牧畜―	中村明蔵	〃	
193	〃	書評「隼人文化」創刊号によせて	乙益重隆	〃	
194	〃	地域考古学界の動向―鹿児島県	上村俊雄	考古学ジャーナル118号	
195	〃	1975年の動向―旧石器時代	小林博昭	〃 123号	
196	〃	概説	小林達雄	日本の旧石器文化3	
197	〃	先史時代の西海交通と薩摩半島	河口貞徳	えとのす第6号	
198	〃	環シナ海民族文化考	国分直一		慶友社
199	〃	橋牟礼川遺物包含層遺跡	河野治雄	年報27	
200	〃	上場遺跡	池水寛治	〃	
201	〃	地福廃寺遺跡	盛園尚孝	〃	
202	〃	広域に分布する火山灰―始良Tn火山灰の発見とその意義	町田洋・新井房夫	科学46-6	
203	1977(S52)	新番所後遺跡	長野真一	鹿児島埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	鹿児島教委
204	〃	指辺・横峯・中之峯・上焼田遺跡	戸崎・出口他	〃 (5)	〃
205	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査概報	立神・中村他	〃 (6)	〃
206	〃	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告1	平田・新東他	〃 (7)	〃 西免・朽場・山神・曲迫・桑ノ丸
207	〃	南宮島遺跡	青崎和憲		始良町教委
208	〃	辻堂原遺跡	池畑・弥栄也		吹上町教委
209	〃	村原(梶ノ原)遺跡	新東・中島・牛ノ浜		加世田市教委
210	〃	鹿児島県市町村別遺跡地名表	鹿児島教委		
211	〃	隼人の研究	中村明蔵		学生社
212	〃	国分市城山・姫城	〃	隼人文化第3号	
213	〃	隼人塚	上村俊雄	〃	
214	〃	南島の二つの遺跡	下野敏見	〃	
215	〃	権力者の墓制	上村俊雄	〃	
216	〃	隼人の豪族 曾君についての考察	中村明蔵	〃	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
217	1977(S52)	国分平野の遺跡	新 東 晃 一	隼人文化第3号	
218	〃	大隅国分寺址をみて	平 田 信 芳	〃	
219	〃	隼人の城について	上 村 俊 雄	〃	
220	〃	鹿児島県出土の南島産貝資料	〃	〃	
221	〃	先史時代における南島と九州本土との文化交流について	〃	具志川島遺跡群第一次発掘調査報告書	伊是名村教委
222	〃	民族学から見た古代九州	大 林 太 良	西南日本の古代文化	東アジアの古代文化別冊
223	〃	考古学から見た隼人	上 村 俊 雄	〃	〃
224	〃	隼人の叛乱のあとにきたもの	中 村 明 蔵	〃	〃
225	〃	東南アジア史から見た隼人の位置	生 田 滋	〃	〃
226	〃	シンポジウム 「古代南九州の原像」		〃	〃
227	〃	鹿児島県縄文時代の研究史	河 口 貞 徳	九州の原始文様	佐賀県博
228	〃	夜臼式土器出土地名表	浜田昌治・木川雅樹	福岡考古懇話会会報第7号	
229	〃	鹿児島県の円筒土器	弥 栄 久 志	考古学論叢第4号	
230	〃	九州の円筒土器とその編年の問題	賀 川 光 夫	〃	
231	〃	九州の板碑	賀川・松岡・桑原永松	考古学ジャーナル132	
232	〃	経塚研究文献目録Ⅳ	関 秀 夫 編	〃 135	
233	〃	喜界島の俊寛墓から発掘された人骨	鈴 木 尚	〃 136	
234	〃	木棺について	中野政樹・山内文	〃 〃	
235	〃	マンローがケンブリッジ大学に寄贈した日本の資料その他について	芹 沢 長 介	考古学研究 95・96	
236	〃	成川式土器	平 島 勇 夫	つくし第7号	つくし古代文化研究会
237	〃	先史時代の南島およびその周辺	国 分 直 一	日本民族と黒潮文化	角川書店
238	〃	研究史－南島の考古学	〃	〃	〃
239	〃	沖永良部島の遺跡	新 田 重 清	やむちん	
240	〃	奄美先史土器文化の南漸	安 里 進	〃	
241	〃	奄美大島伊子茂遺跡について	広 山 淳 一	南島考古第5号	
242	〃	貝をめぐる考古学	三 島 格		学生社
243	〃	鹿児島県上場遺跡	池 水 寛 治	年報 28	
244	〃	鹿児島県加栗山遺跡	青 崎 和 憲	〃	
245	〃	加治屋園遺跡	弥 栄 久 志	〃	
246	〃	釘田遺跡	平 田 信 芳	〃	
247	〃	牟田尻・カラン迫遺跡	池 畑 耕 一	〃	
248	〃	梶原遺跡	新 東 晃 一	〃	
249	〃	植平遺跡	河 口 貞 徳	〃	
250	〃	萩原遺跡	平 田 信 芳	〃	

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
251	1977(S52)	長ヶ原遺跡	新 東 晃 一	年報 28	
252	〃	木屋原遺跡	弥 栄 久 志	〃	
253	〃	葛根塚遺跡	新 東 晃 一	〃	
254	〃	松木原遺跡	〃	〃	
255	〃	上焼田遺跡	出 口 浩	〃	
256	〃	入来遺跡	河 口 貞 徳	〃	
257	〃	志布志湾沿岸の古墳文化	上 村 俊 雄	南日本文化第10号	
258	1978(S53)	西之蘭遺跡	池畑耕一・長野真一	鹿児島埋蔵文化財発掘調査報告書(8)	
259	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査概報	立神次郎・中村耕治	〃 (9)	
260	〃	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ	諏訪昭千代 他	〃 (10)	〃
261	〃	赤木・下剝峯・大四郎・内和遺跡	新東晃一・立神次郎		東原・入道・柳ヶ迫他
262	〃	萩原遺跡	平 田 信 芳 他		西之表市教委
263	〃	岩本遺跡	長野真一・中島哲郎	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	始良町教委
264	〃	阿多貝塚	戸崎勝洋・青崎和憲	金峰町埋蔵文化財調査報告書(1)	指宿市教委
265	〃	堅野(冷水)窯址	戸崎・吉永・中島		金峰町教委
266	〃	サウチ遺跡	河口・出口・本田	笠利町教育委員会 鹿児島考古第12号	社会法人南風病院
267	〃	納曾遺跡	上村・本田・旭他	〃	
268	〃	道の島の考古学	国分直一・白木原和美	えとのす第9号	
269	〃	隼人源流再考	国 分 直 一	〃	
270	〃	隼人の埋葬	河 口 貞 徳	〃	
271	〃	与論島見聞記	金 関 丈 夫	〃	
272	〃	南西諸島の類須恵器ーシナ海半月弧文化圏	白木原 和 美	〃	
273	〃	トカラ通信	〃	〃	
274	〃	隼人の村落社会	中 村 明 蔵	〃	
275	〃	貝の道の考古学	永井昌文・国分直一	えとのす第10号	
276	〃	南島先史葬制追考	国 分 直 一	〃	
277	〃	弥生時代の祭祀遺跡ー大隅半島山ノ口遺跡	河 口 貞 徳	〃	
278	〃	耳と目の結婚	谷 川 健 一	〃	
279	〃	上代文学にみる肥人	小 島 璽 禮	〃	
280	〃	隼人の国ーその視点	中 村 明 蔵	東アジアの古代文化 第15号	
281	〃	1977年の動向ー弥生時代(西日本)	小 田 富士雄	考古学ジャーナル 149	
282	〃	〃 ー南西諸島	当 真 嗣 一	〃 〃	
283	〃	土師部の造形理念	平 田 信 芳	〃 150	
284	〃	池ノ久保遺跡概観	鮫 島 安 豊	潮流第1号	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所収文献名	備 考
285	1978(S53)	種子島・屋久島に関する考 古学文献目録	鮫島安豊・関一之	潮流第1号	
286	〃	市来貝塚	河 口 貞 徳	鹿児島県文化財調査報 告書第25集	
287	〃	阿久根市脇本窯址	池 水 寛 治	紀要出水1	県立出水高校
288	〃	南九州における人形・馬形 土製品の祭祀形態	新 東 晃 一	古代文化第30巻第2号	
289	〃	隼人農耕論(一)	中 村 明 蔵	隼人文化第4号	
290	〃	鹿児島県における生殖器信仰の系譜 —考古学の資料を中心に—	池 畑 耕 一	〃	
291	〃	鹿児島県曾於郡大崎町持留 双子塚出土の朝鮮式鉄斧	上 村 俊 雄	〃	
292	〃	隼人と馬	〃	〃	
293	〃	熊襲と隼人	井 上 辰 雄	歴史新書	教育社
294	〃	笠利町高又遺跡	安 部 克 子 他	笠利町文化財調査報告No.2 研究室活動報告3	笠利町教育委員会 熊本大学考古学研究室
295	〃	現和西俣発見の灰釉陶と中 国陶磁	亀 井 明 徳	潮流第2号	種子島考古学研究会
296	〃	現和西俣遺跡の発見の経緯 と概況	石 堂 次 美	〃	〃
297	〃	立山出土のチョーナ型石器	鮫 島 安 豊	〃	〃
298	〃	隼人の楯	中 村 明 蔵	学生社	単行本
299	〃	南九州の火山灰と土器形式	新 東 晃 一	どるめん第19号	
300	〃	隼人と大和政権	井 上 辰 雄	学生社	単行本
301	〃	大口市郷土誌資料 第6集	大口市郷土誌編さん 委員会		寺師(1954)を集録
302	〃	動 向	平 田 信 芳	年報29	
303	〃	釘田遺跡(第8地点)	〃	〃	
304	〃	堅野系冷水窯跡	戸 崎 勝 洋	〃	
305	〃	岩本小牧遺跡	長 野 真 一	〃	
306	〃	村原(梶ノ原)遺跡	新 東 晃 一	〃	
307	〃	城山山頂遺跡	平 田 信 芳	〃	
308	〃	南宮島遺跡(1)	青 崎 和 憲	〃	
309	〃	〃 (2)	〃	〃	
310	〃	石峰遺跡	出 口 浩	〃	
311	〃	木佐貫原遺跡	吉 永 正 史	〃	
312	〃	横瀬古墳	中 村 耕 治	〃	
313	〃	阿多貝塚	戸 崎・青 崎	〃	
314	〃	辻堂原遺跡(1)	池 畑 耕 一	〃	
315	〃	〃 (2)	〃	〃	
316	〃	九州経塚分布地名表	宮小路賀宏・杉山洋	考古学ジャーナル153	
317	〃	論集・海上の道	国 分 直 一 編	日本古代文化叢書	大和書房
318	〃	熊襲と隼人の文化	隈 昭 志	地方文化の日本史(I)	文一総合出版

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
319	1978(S53)	志布志湾における文化財の 保護に関する動向	三 木 靖	南日本文化 11	
320	〃	与論島の先史・原史時代遺跡	高宮廣衛・知念勇	南島文化研究所々報 3	
321	1979(S54)	九州縦貫自動車道関係埋蔵 文化財調査報告Ⅲ	新東・吉永他	鹿児島県埋蔵文化財発 掘調査報告書 11	三代寺・木佐貫原
322	〃	宇宿貝塚	河口・出口・本田		笠利町教委
323	〃	別府(石踊)遺跡	立神次郎・中村耕治		志布志町教委
324	〃	野久尾遺跡	酒 匂 義 明		〃
325	〃	小牧第Ⅱ調査区	弥栄・中島他	指宿市埋蔵文化財発掘 調査報告書 2	指宿市教委
326	〃	大竜遺跡	上村・本田・旭・繁昌	鹿児島市埋蔵文化財発 掘調査報告書 1	鹿児島市教委
327	〃	荘 貝 塚	池水・長野・旭	出水市文化財調査報告 書 1	出水市教委
328	〃	薩摩国分寺跡一昭和53年度 発掘調査概報	沢村・諏訪・池畑		川内市教委
329	〃	手広遺跡発掘調査終了報告	中 山 清 美		竜郷町教委
330	〃	タチバナ遺跡	村 田 他	研究室活動報告 4	熊本大学考古学研究室
331	〃	14C年代からみた九州地方 縄文時代の編年	坂 田 邦 洋	別府大学考古学研究室 報告第2冊	
332	〃	長島の旧石器一出水郡東町尻 無平遺跡・毎床牧場入口遺跡	池崎義二・吉留秀敏	鹿児島考古第13号	
333	〃	出水地方平野部の細石器資 料	吉 留 秀 敏	〃	
334	〃	磨製石鏃二例	瀬戸久夫・吉留秀敏	〃	
335	〃	吹上町今木場遺跡の石器に ついて	池 畑 耕 一	〃	
336	〃	湯之浦山上遺跡	本田道輝・東靖子 有 元 彰 順	〃	
337	〃	六堂会古墳について	有 元 彰 順	〃	
338	〃	隼人が用いた王器一成川式 土器	平 田 信 芳	隼人文化第5号	
339	〃	隼人の漁撈生活	池 畑 耕 一	〃	
340	〃	宇佐八幡托宣集の隼人七城 小考	市 采 家 隆	〃	
341	〃	古代における鹿児島湾沿岸部勢力に ついて一成川遺跡の存在をめぐって	中 村 明 蔵	隼人文化第6号	
342	〃	鹿児島県	三 木 靖 他	日本城郭大系 18	
343	〃	鹿児島県における弥生時代 研究の現状	池 畑 耕 一	九州考古学54号	
344	〃	南部九州の弥生系高地性集 落の機能と編年	河 口 貞 徳	高地性集落の研究	学生社
345	〃	千束遺跡	〃	〃	〃
346	〃	薩摩国分寺の塔は七重か五 重か	平 田 信 芳	考古学ジャーナルNo.159	
347	〃	1978年の動向一縄文時代 (西日本)	隈昭志・杉村彰一	〃 No.165	
348	〃	〃 一南西諸島	知 念 勇	〃 〃	
349	〃	地域考古学界の動向Ⅱ一鹿 児島県	長 野 真 一	〃 No.169	
350	〃	九州地方の細石器文化	橘 昌 信	駿台史学第47号	
351	〃	小牧3A遺跡の紹介	長 野 真 一	指宿史談創刊号	
352	〃	鹿児島県古墳文化	上 村 俊 雄	みなみの手帖No. 26	

鹿児島県考古学文献目録 II

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
353	1979(S54)	弥生時代研究の動向	工 楽 善 通	年報 30	
354	〃	下剝峯遺跡	新 東 晃 一	〃	
355	〃	城山山頂遺跡	平 田 信 芳	〃	
356	〃	萩原遺跡	〃	〃	
357	〃	楽之平遺跡	池 水 寛 治	〃	
358	〃	サウチ遺跡	河 口 貞 徳	〃	
359	〃	西之園遺跡	池 畑 耕 一	〃	
360	1980(S55)	石峯遺跡	河口・出口他	鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書12	県教委
361	〃	大隅地区埋蔵文化財分布調査概報	立 神・中 村	〃 13	〃
362	〃	上ノ城遺跡	諏 訪・池 畑	加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書2	加世田市教委
363	〃	弓場ヶ尾地区一養輪遺跡・柳遺跡	立 神・中 村		志布志町教委
364	〃	橋牟礼川遺跡	弥 栄・井ノ上	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書3	指宿市教委
365	〃	萩原遺跡(Ⅱ)	平田・青崎・中村		姶良町教委
366	〃	中岳洞穴	河 口 貞 徳		末吉町教委
367	〃	薩摩国分寺一昭和54年度発掘調査概報	沢村・諏訪・池畑		川内市教委
368	〃	馬毛島埋葬址一西之表市椎ノ木遺跡	白木原和美他	研究室活動報告6	熊本大学考古学研究室
369	〃	タチバナ遺跡(2)	中 村 愿 他	〃 7	〃
370	〃	所謂広田型貝輪の細分について	木 村 幾多郎	史淵 117 輯	
371	〃	鶴田町小松原古墳	上 村 俊 雄	隼人文化第7号	
372	〃	鹿児島県における抜歯風習の特質	池 畑 耕 一	〃 第8号	
373	〃	古代における服属関係の成立(Ⅰ)一隼人の服属をめぐって	中 村 明 蔵	鏡山猛先生古稀記念古文化論叢	
374	〃	沖永良部における先史遺跡調査概要	高 宮 廣 衛	南島文化研究所々報	沖縄国際大学南島文化研究所
375	〃	火山灰からみた南九州縄文早・前期土器の様相	新 東 晃 一	鏡山猛先生古稀記念古文化論叢	
376	〃	高麗瓦など	三 島 格	〃	
377	〃	成川式土器の細分編年試案	池 畑 耕 一	鹿児島考古第14号	
378	〃	岡山県王泊遺跡出土の成川式土器	〃	〃	
379	〃	表紙説明 平楯式土器	河 口 貞 徳	〃	
380	〃	下田尻遺跡について	本田道輝・有元彰順	〃	
381	〃	鹿児島県における安国寺式土器の一例	平 島 勇 夫	〃	
382	〃	東黒土田採集の平楯式土器とその他について	瀬戸口 望	〃	
383	〃	輪野尾採集の塞ノ神式土器	多々良 友 博	〃	
384	〃	樋脇町楠八重の段遺跡・沢牟田遺跡	川 畑 昭 光	〃	
385	〃	松木園遺跡出土の土器について	本 田 道 輝	〃	
386	〃	鹿児島湾北岸地域における考古学的な一般調査報告(Ⅰ)	新 田 栄 治	鹿児島大学教養部史学科報告第29号	

鹿児島考古第16号

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
387	1980(S55)	木村幹夫考古学論文集	木 村 幹 夫		単行本
388	〃	宇宿貝塚の埋葬	河 口 貞 徳	日本民俗文化とその周 辺考古篇	
389	〃	九州および南島出土の鯨歯 製垂飾について	三 島 格	〃	
390	〃	九州系弥生文物の対外伝播 覚書	小 田 富士雄	〃	
391	〃	弥生時代における南海産貝 輪の系譜	木 下 尚 子	〃	
392	〃	奄美における近年の考古学	中 山 清 美	南島考古だより第22号	沖縄考古学会
393	〃	動 向	盛 園 尚 孝	年報 31	
394	〃	釘田第6地点	戸 崎 勝 洋	〃	
395	〃	タチバナ遺跡	中 村 愿	〃	
396	〃	小牧第Ⅱ調査区	弥 栄 久 志	〃	
397	〃	加治屋遺跡	池 畑 耕 一	〃	
398	〃	上ノ城遺跡	〃	〃	
399	〃	白寿遺跡	弥 栄 久 志	〃	
400	〃	下原遺跡	〃	〃	
401	〃	薩摩国分寺跡	池 畑 耕 一	〃	
402	〃	外川江遺跡	平 田 信 芳	〃	
403	〃	荘・貝 塚	池 水 寛 治	〃	
404	〃	城山山頂遺跡(第3次)	平 田 信 芳	〃	
405	〃	中尾田遺跡	新 東 晃 一	〃	
406	〃	山崎B遺跡	牛之浜 修	〃	
407	〃	中岳洞穴	河 口 貞 徳	〃	
408	〃	別府(石踊)遺跡	立神次郎・中村耕治	〃	
409	〃	横瀬古墳	〃	〃	
410	〃	伊敷遺跡	〃	〃	
411	〃	牧ノ原遺跡	〃	〃	
412	〃	上小牧遺跡	〃	〃	
413	〃	大園遺跡	青 崎 和 憲	〃	
414	〃	宇宿貝塚	河 口 貞 徳	〃	
415	〃	先史時代におけるスイジ貝 製品について	上 村 俊 雄	鹿大史学第28号	
416	1981(S56)	加治屋園遺跡・木の迫遺跡	弥栄・長野・池畑他	鹿児島埋蔵文化財発掘調 査報告書 14	県教委
417	〃	中尾田遺跡	新東・中島・井ノ上	〃 15	〃
418	〃	加栗山遺跡・神ノ木山遺跡	青崎・戸崎・牛ノ浜	〃 16	〃
419	〃	山崎A・C遺跡・木場C遺 跡	吉永・中村・池畑他	〃 17	〃
420	〃	与論島の先史時代	山 口 俊 博 他	研究室活動報告 9	熊本大学考古学研究室

鹿児島県考古学文献目録 Ⅱ

資料 番号	発行年	文 題	著 者 名	所 収 文 献 名	備 考
421	1981(S56)	宇宿港遺跡	白木原 和美他	研究室活動報告 9 筭利町文化財報告 No.4	熊本大学考古学研究室 筭利町教委・筭利町郷土館
422	〃	花牟礼(大戸原)遺跡	出 口・繁 昌	高山町埋蔵文化財調査 報告書 1	高山町教委
423	〃	一湊松山遺跡	〃	上屋久町埋蔵文化財発 掘調査報告書 1	上屋久町教委
424	〃	宮之迫遺跡	長野・井ノ上	末吉町文化財調査報告 書 2	末吉町教委
425	〃	松之尾遺跡	戸 崎・吉 永	枕崎市松之尾地区画整理事業 に伴う埋蔵文化財調査報告書 1	枕崎市教委
426	〃	宮之前遺跡	弥 栄・中 島	指宿市埋蔵文化財調査 報告書 5	指宿市教委
427	〃	薩摩国分寺跡一昭和55年度 発掘調査概報	沢村・諏訪・池畑		川内市教委
428	〃	九州の縄文・前期土器の 編年	坂 田 邦 洋	史学論叢第11号	別府大学
429	〃	九州縄文時代土偶の研究	宮 内 克 己	九州考古学 55	
430	〃	知覧町内における先史時代 研究のための調査資料覚書	河 野 治 雄	知覧文化第18号	
431	〃	日向三山陵の設定について (古代における服属関係の成立Ⅱ)	中 村 明 蔵	隼人文化第 9 号	
432	〃	新大隅開発計画と埋蔵文化財	河 口 貞 徳	第 2 次埋蔵文化財白書	学生社
433	〃	考古学一遺跡探訪	池 畑 耕 一 他	かごしま茶の間の地球 科学	鹿児島県教育地質調 査団
434	〃	松木蘭遺跡の調査	本 田 道 輝	鹿大史学第29号	
435	〃	動 向	河 口 貞 徳	年報 21・22・23	
436	〃	北手牧遺跡	〃	〃	
437	〃	北手牧遺物包含地 (第 2 次調査)	河 野 治 雄	〃	
438	〃	空港建設地内遺跡	河 口 貞 徳	〃	
439	〃	上加世田遺跡	〃	〃	
440	〃	入来遺跡	〃	〃	
441	〃	別府原古墳	〃	〃	
442	〃	北方古墳	〃	〃	
443	〃	鷲塚古墳	〃	〃	
444	〃	堂前古墳	〃	〃	
445	〃	薩摩国分寺跡	〃	〃	
446	〃	御灰塚	〃	〃	
447	〃	朝仁貝塚	〃	〃	
448	〃	坂之上坂口遺跡	河 野 治 雄	〃	
449	〃	上場遺跡	池 水 寛 治	〃	
450	〃	上場狸山遺跡	〃	〃	
451	〃	宮ノ脇遺跡	〃	〃	
452	〃	脇本古墳群	〃	〃	
453	〃	青椎郷田遺跡	〃	〃	
454	〃	溝下古墳群	〃	〃	